資料3

令和７年度　重点目標　　部署:教務部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
授業の質の向上	・教科内での公開授業を実施し研究する ・教員同士の協力や情報共有を進める ・ICTを活用して生徒が積極的に学べる環境を整える ・評価基準を明確にし、どのように取り組むのかわかりやすく伝える ・授業評価を実施する	・教科内研究の進捗 ・ICT活用状況 ・生徒の学習評価 ・授業評価	公開授業の実施等を通して、教科内で授業研究を継続的に進めた。また、授業評価や学習評価をもとに授業の振り返りを行い、授業改善につなげるよう努めた。
基礎学力の定着	・朝礼時の朝読書の強化 ・定期的に作文トレーニングを実施 ・終礼時の学習トレーニングとして、Classiを利用し、個別レベルに合わせて実施 ・放課後の自習、学習会を促進	・読書量 ・作文の成長度 ・Classiの記録 ・スタディーサポートの結果	朝読書の時間は有効であるが、読書量の増加には個人差が見られる。 作文トレーニングを回数を重ねて行うことで、書くことへの慣れや、自分の考えをもつ力の育成につながっている。 スタディーサポートの結果を見ると、入学当初と比べて向上が見られる。
生徒の学習意欲の向上	・授業内で学習の動機付けを強化 ・放課後の自習、学習会を促進 ・Classi利用で、その日の授業の振り返りができるように課題配信 ・学習成果を評価し、フィードバックを通じて自信を持たせる	・放課後の自習、学習会への参加人数 ・Classiの記録	Classiの導入により学習に取り組む環境は広がり、一部の生徒が積極的に活用している様子も見られた。一方で、学校全体としてはまだ十分に浸透しているとは言えず、次年度の課題となっている。
観点別評価方法の改善	・評価基準を明確にし、どのように取り組むのかわかりやすく伝える ・評価のための取り組みではなく、学力向上のための取り組みとなるように計画的に実施	・生徒の学習評価 ・生徒の取り組む姿勢	指示された取組については、生徒が熱心に取り組む姿勢が見受けられる。
主体性を育てる	・生徒に校外学習の企画をさせる ・部活動間の交流を行う ・土曜講座などで、複数教科にまたがる探究的な取り組みを行う	・生徒の取り組む姿勢 ・事後評価	次年度の課題である。

資料3

令和７年度　重点目標　　部署：進路指導部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
3年間の一貫性ある進路指導スキームの構築	これまでの進路指導実践に基づき、計画的・系統的な進路指導プログラムをまとめる。特に1・2年では「自己理解」と「社会理解」の発展を目指して、講演会・ガイダンス・模擬面接・大学模擬授業を実施する。協定大学との連携を中心に、取り組みを計画して実践する。	3年間の進路指導計画の提示と実践	「進路の手引き」を次年度に利用する教材として作成している。進路HR・ガイダンス等の機会に「自己理解」「社会理解」や「進路選択・決定」につなげるものとして活用する。さらなる進路意識向上を狙って、大学模擬授業や講演会など多くの大学と連携することができた。
総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試（指定校以外）の活用	多様な総合型選抜や学校推薦型選抜の制度を活用した進路指導を行い、生徒の諸活動を活かして目指す大学の幅を広げる。講演会・ガイダンスを通して情報提供や意識付けを行う。志望理由・面接対策を実施する。	指定校推薦枠のない学校への進路希望者数と進学者数	夏期講座として志望理由や面接対策講座を実施した。大学教授を招いての講演会も実施した。甲南大・武庫川女子大・大阪経済大・大阪芸術大・園田学園大（看護）・創価大（看護）等へ合格した。また、総合型選抜での合格者数が増加した。（R6：43名→R7：70名）
小論文指導体制の確立	国語科の授業において実施する小論文指導を基礎におき、特に受験対策（3年次）として指導する計画をまとめる。進路指導担当者・学級担任・第3学年が連携して、業者添削等も活用して対策を行う。	進路指導担当者・学級担任・第3学年が連携して、業者添削等も活用して行う対策の計画の提示と実践	夏期講座として小論文対策講座を開催した。業者より専門講師を招いて講演会も実施し、実践的な添削指導（小論文模擬試験の受験）も行った。武庫川女子大・京都外国語大・畿央大・甲南女子大（看護）・大阪信愛学院大（看護）等へ合格した。
学力向上に向けた効果的なシステムの構築	オンライン教材等を活用して、学習意識の向上・学習機会の増加・学習管理の強化につなげる。特にテスト教材と連携した活用やチュートリアル制度で活用する。	オンライン教材導入と、導入後の具体的な活用計画や学習計画の提示と実践	終礼やスタディーサポート等に合わせてオンライン教材（Classi）の配信を行い、個々に合わせた課題配信を実施した。チュートリアル制度（難関私大チャレンジコース）では、希望進路実現に向けて、学習環境を整えつつ、オンライン教材を活用する機会を設けた。

資料3

令和７年度　重点目標　　部署：入試広報部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1)入学者数の目標達成 目標を達成するために以下に示す各項目での目標達成を目指す	・受験者および入学者の確保については、入試広報部だけでなく、学園全体での取り組みが不可欠である ・企画広報が主体となる、宣伝広告およびオープンスクールについては密に連携を図り、質の向上を目指す	入学者数280名 （前年度235名） 専願者数250名 （前年度204名） 受験者数450 名 （前年度420名）	入学者数　　名　※1次＋1.5次+併願戻り （前年度235名） 専願者数226名　※1次＋1.5次 （前年度204名） 受験者数410 名　※1次＋1.5次 （前年度420名）
(1-1)効果的な訪問活動 ・訪問計画 ・オープンスクール（OS） ・外部説明会	本校へのアクセスを増加させるための活動を行う(効果的な訪問活動) ・訪問回数を均一的に増やすのではなく、計画的(地理、沿線等を加味した)な訪問活動を行う ・オープンスクール（OS）、外部説明会等でわかりやすい説明を心がける	塾訪問　　延べ 2840 回 3/末 （前年度 1460 回） 中学校　　延べ 2930 回 3/末 （前年度 2860 回） OS参加者数 1,330名 （前年度1,470名）	広報部員が昨年度より約2名減の中で、中学校・塾とも昨年度より訪問件数は増やすことができた。 しかし、OSへの参加数が伸びておらず、外部説明会での対策が必要であると考える。
(1-2)効果的な情報発信 ・本校在校生や卒業生の情報 ・SNSの有効利用	・本校の認知のみならず、本校在校生や卒業生に関する情報を具体的に伝える ・SNSの有効活用 単なる情報発信に終わらずブランディングを強く意識したHPの改変を行う、またインスタグラムの導入で認知度を高める		今年度は、HPの内容の充実とインスタグラムの内容充実と検証については進んだが、LINEについての活用があまりできていなかった。来年度はLINEについての発信も進めていく必要があると考えます。
(2-1)部内システムの構築	継続的に望ましく安定した結果を得るために、個人の力量に頼るだけでなく、入試広報部として情報共有するシステムを構築する	左記項目が実施できたかどうかの確認	入試広報活動の財産としても過去のデータを活用できるように、情報処理を活用する事が必須であるし考える。
(2-2)部内システムの構築	定期的に部会を開き、訪問情報、中学生情報、成功事例、課題等の検討および共有化をはかり、外部よりの質問に対し部員誰もが回答できる体制を構築する	左記項目が実施できたかどうかの確認	現状として、(2-1)の情報処理の構築が進んでいないために担当者任せとなっている。

資料3

令和７年度　重点目標　　部署：生徒指導部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
自由闊達にして愉快なる学園の実現Ⅰ 自主的に「時（社会的状況）、場所（地域情報）、場合（生活様式）」を意識した行動がとれるようになること	KBJ48を全員で活用し感性を育てる。 良識と常識を持って、指導する。 尊厳（人権意識）を大切にする。 社会性と道徳をもって、判断する。 自立と主体性を育む。	振り返りアンケートを実施しする（目標） KBJについて（取組85%） 諸規定について（遵守90%） 学校生活の楽しさ（目標85%） 長欠生徒の減少（10%未満）	「自由闊達にして愉快なる理想の学園建設」というテーマを本年度も継続しながら指導の在り方を模索した。 今後も常識に照らしながら、生徒を支援していく方針・目標が固まった。 **生徒指導部改め生徒支援部に変更へ**
自由闊達にして愉快なる学園の実現Ⅱ 諸規定の整備	身嗜み（着こなし・頭髪・その他）、アルバイト等の内容について最適化をすすめる。	「ルールがあるから守る人」になることではなく「自分の判断で良識・常識にあった判断と行動ができる人」が目標	学校が楽しいと感じている生徒 1年…92.5% 2年…83.2% 3年…84.5% ケース会議…事情を抱える生徒の会議 24回実施（17名）→3年12名　2年6名　1年3名が所属。（退学4　転学13） 本年度はサポート制度から**12名が卒業。**
いじめに対する対応	いじめに関するアンケートを6月と9月の2回実施する。 早期に発見し、いじめ対応に関する学校の体制に基づいて対応して、解決をはかる。	いじめの事案が発生した場合、いじめ問題対応マニュアルに基づき、双方納得ゆく解決を迅速に行う。	2回のいじめに関するアンケートでは、数名の生徒から「いじめ」に関する回答があり、学年・担任を中心に聴き取りを行ったが、「いじめ」に至る報告はなかった。学年・担任の聴き取りは迅速に行われた。
SNSなどによるトラブルの防止 （R6年度0件発生）	学年集会（4月）や各HR活動で、具体的　事例をあげて生徒に考えさせて指導する。	SNSトラブル発生防止の取り組みを進めるが、発生した場合は迅速に解決する。	毎年、全学年でSNSトラブルについて集会を行ったが、3件発生した。 今後もiPadの活用も含めて、SNSトラブルの学習会を継続する。 問題発生件数は12件
健康教育に関する取組 衛生環境の整備と感染症予防	教室環境のチェック（温度・換気） 保健だよりの発行（年10回） 保健員会活動の推進（啓発活動） 部活動への注意喚起（熱中症・感染症） 保健室と生活指導で情報共有	欠席や出席停止の増加を防ぐ 長欠生徒（30日欠席）の減少 学級閉鎖・休校の阻止	保健だよりの発行、保健委員会のもと手洗い、換気の励行とﾎﾟｽﾀｰ作成・掲示を全ｸﾗｽで実施→学級閉鎖がなく、感染症拡大防止の成果が見られた。 長欠生徒…52名（サポート生徒含む）

資料3

令和７年度　重点目標　　部署：生徒会指導部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
明華祭の活性化と質の向上 ・生徒の主体性を生かしながら、より完成度の高い作品を制作することで充実感、達成感を感じさせる。 ・本校にしかない行事にする。	・各クラス、部活動との打合せ等を密にして、進捗状況の確認と作品の質の向上に務める。	来場者、生徒アンケート結果	昨年度に比べて少しレベルアップしたように感じるが、来年度は更に完成度の高い内容になるようにサポートしていきたい。 アルカイックホールの来場者アンケートでは100%の好評を得た。
体育祭の成功 「生徒がクラスメイトとともに体を動かすことを通して、楽しく過ごす１日」という本校の体育祭が定着している。その体育祭の成功を目指す。	・団体競技を通じて、クラス、学年の団結力連帯感を感じさせる。 ・運動が苦手な生徒も楽しく参加できる種目を実施する。	・生徒アンケート結果 ・当日の出欠状況の確認	生徒アンケートで好評が98%であった。
・生徒主体の行事を多く実施し、学校生活がより楽しく、充実したものになるように務める。 ・生徒が主体的に運営する委員会活動を目指す。	・生徒会執行部の生徒が、行事を企画、運営し、一般の生徒に楽しい時間を過ごしてもらう。（過去の一例：射的大会、ウォーターバトルなど） ・委員会の取り組み内容や運営方法などを生徒に考えさせて、主体的な委員会活動を目指す。	・参加生徒のアンケート結果 ・行事の実施回数	「ウォーターバトル大会」や「チョコレートクッキー制作体験」などの行事を生徒会の生徒が企画、実施し、好評を得た。 季節に応じた内容を記載し、教室に掲示してもらった。発行部数10部
オープンスクールの充実 全校あげての取り組みとし、参加者の増加を目指す。	・本校の魅力を、より多くの人にしってもらう内容と、コース体験を通して、コースの魅力を知ってもらう内容にする。 ・生徒と教員の距離感が伝わるよう、生徒主体のオープンスクールを実施する。	参加者数	教職員、生徒ともに全校をあげて取り組む意識が見られるようにnあった
・令和8年度以降の文化祭について検討する。 ・令和8年度、9年度体育祭について検討する。	・明華祭を継続するしない、全く新しい考え方での文化祭にするのか、を含めて検討する。 ・場所を変えて内容を変えないで実施にするのか、全く新しい体育祭にするのか、を検討する。 生徒会だけでなく、全校あげて検討する。		・令和8年度の明華祭は、生徒の主体性を引き出し、より自由な雰囲気を作っていく ・１日目は吹田のメイシアターで、２日目は校内で実施 ・令和8年度体育祭は前日の予約ができなかったため、当日の朝準備、夕方遅くまで実施 ・令和9年度については未定

好文学園女子高等学校
校長　延原　観司

令和８年度　好文学園女子高等学校　学校評価

１．目指す学校像

教育方針

- ✧　自律した社会に貢献できる女性の育成
- ✧　基礎学力の向上と女性としてのマナーと教養の習得
- ✧　「個性創造」（基礎基本を身につけた独自性）
- ✧　「やればできるは魔法の言葉　自分サイズの未来を拓く
  チャンスメーカー好文学園」

目指す学校像

自由闊達にして愉快なる学園（主体性を育て、センスを磨く）

２．令和８年度目標

①　９０周年事業としてライブラリーとレストランリニューアル
②　SNS 活用による広報活動補強
⑤　生徒サポートの充実

令和８年度　重点目標　　部署:教務部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
授業の質の向上	・教科内での公開授業を実施し研究する ・教員同士の協力や情報共有を進める ・ICTを活用して生徒が積極的に学べる環境を整える ・評価基準を明確にし、どのように取り組むのかわかりやすく伝える ・授業評価を実施する	・教科内研究の進捗 ・ICT活用状況 ・生徒の学習評価 ・授業評価	
基礎学力の向上	・朝礼時の朝読書の強化 ・終礼時の学習トレーニングとして、国語・数学・英語・作文の基礎力を養う取り組みを行う ・放課後の自習、学習会を促進	・読書量 ・作文の成長度 ・Classiの活用 ・スタディーサポートの結果	
生徒の学習意欲の向上	・授業内で学習の動機付けを強化 ・放課後の自習、学習会を促進 ・Classiの活用で、自主学習につなげる ・学習成果を評価し、フィードバックを通じて自信を持たせる	・放課後の自習、学習会への参加人数 ・Classiの記録	
観点別評価方法の改善	・評価基準を明確にし、どのように取り組むのかわかりやすく伝える ・評価のための取り組みではなく、学力向上のための取り組みとなるように計画的に実施	・生徒の学習評価 ・生徒の取り組む姿勢	
キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う	日々の授業やHR活動、部活動や学校行事、またキャリアパスポートを通して次の能力を育む 〇人間関係形成・社会形成能力 〇自己理解・自己管理能力 〇課題対応能力 〇キャリアプランニング能力	・キャリアパスポートの活用状況 ・課外活動などの参加状況	

令和 8 年度　重点目標　　部署：進路指導部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
「進路の手引き（仮称）」を3年間の進路指導スキームとして運用する。	年度当初に「進路の手引き」を作成し、3年間を通して計画的に利用する教材として活用できるように準備する。指導機会毎に学年・学級担任と連携して、具体的な活動を通して、生徒の「自己理解」「学問・社会理解」「進路意識向上」「進路決定」につなげる。	「進路の手引き」を進路指導教材として、計画通り活用する。特に3年生については進路決定動向を確認する。	
「社会・学問理解」を目的として、外部講師を招聘して講演会や講座を実施する。	自己理解を通して社会理解・学問理解を促し、社会への自らの関わりを考える機会を与え、進路希望・決定につなげることを目指す。具体的には上記「進路の手引き」の計画の一部として、大学模擬授業・講演会の実施を計画する。	実施計画の策定・実施内容・実施状況を確認する。	
チュートリアル「難関私大チャレンジコース」の運用を定着させる。	「難関私大チャレンジコース」（令和8年度版）計画を踏まえて、進路指導部の役割を果たし、各教科と連携して、希望する生徒に応じた学習機会や進路実現を目指せる環境を提供する。	「難関私大チャレンジコース」参加生徒の活動状況を確認する。	
進路指導室「自習室」として開放することで、集中して取り組める学習環境を提供し、生徒へ学習の習慣化を促す。	進路指導室の利用環境を「学習スペース」と「個別指導スペース」として隔てることで、昼休み・放課後や長期休暇を中心に、効率的・効果的な運用を行う。	進路指導室の生徒来室・利用状況を確認する。	
進路に関連する情報をより多くかつ広く提供できるようにする。	大学等のオープンキャンパスや各種講座開催の情報提供、その他進路に関連する情報を、電子データを活用してより多くの生徒に発信することで、進路情報の取得や各種活動への参加機会など広く得ることで、生徒の自主的活動を促す。	年間通して情報更新を継続することを確認する。	

令和８年度　重点目標　　部署：入試広報部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1)入学者数の目標達成 目標を達成するために以下に示す各項目での目標達成を目指す	・受験者および入学者の確保については、入試広報部だけでなく、学園全体での取り組みが不可欠である ・企画広報が主体となる、宣伝広告およびオープンスクールについては密に連携を図り、質の向上を目指す	入学者数　270名 (令和7年度実績 234名 留学生8名除く) 専願者数　260名 (令和7年度実績 227名 留学生8名除く) 受験者数　460名	
(1-1)効果的な訪問活動 ・訪問計画 ・オープンスクール(OS) ・外部説明会	本校へのアクセスを増加させるための活動を行う(効果的な訪問活動) ・計画的(地理、沿線等を加味した、タイミング)な訪問活動を行う ・オープンスクール(OS)、外部説明会等でわかりやすい説明を心がける。 ・外部説明会での集客を意識する。	OS参加　1500名 (令和7年度　延べ　1330名) 外部説明会の参加数　30回 (令和7年度　28回)	
(1-2)効果的な情報発信 ・本校在校生や卒業生の情報 ・SNSの有効利用(特にインスタグラム)	・本校の認知のみならず、本校在校生や卒業生に関する情報を具体的に伝える ・SNSの有効活用 単なる情報発信に終わらずブランディングを強く意識したHPの改変を行う、またインスタグラムの導入で認知度を高める	・入試広報部としてLINEの発信の強化 12回　(令和7年度　3回)	
(2-1)部内システムの構築	継続的に望ましく安定した結果を得るために、個人の力量に頼るだけでなく、入試広報部として情報共有するシステムを構築する	・ミライコンパス 接触管理の導入と活用 ※定期的に活用状況を部内で確認	
(2-2)部内システムの構築	定期的に部会を開き、訪問情報、中学生情報、成功事例、課題等の検討および共有化をはかり、外部よりの質問に対し部員誰もが回答できる体制を構築する	・ミライコンパス 訪問管理の導入と活用 ※定期的に活用状況を部内で確認 ・安定した部会の開催(月１回) ・職朝・ホワイトボード・NEOでの行動確認	

令和 8年度　重点目標　　部署：生徒支援部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
自由闊達にして愉快なる理想の学園① 常識に照らしながら、生徒を支援する	KBJ48を全員で活用し感性を育てる。 良識と常識を持って、指導する。 尊厳（人権意識）を大切にする。 社会性と道徳をもって、判断する。 自立と主体性を育む。	「ルールがあるから守る人」になることではなく「自分の判断で良識・常識にあった判断と行動ができる人」が目標	
自由闊達にして愉快なる理想の学園② 学校が楽しいと感じている生徒の増加 性暴力等防止に関する取り組み厳守	感情的な指導はしない 思い込みで指導しない プライバシーを尊重する 独断で指導をしない 性暴力防止等の取組みの全体周知	学校が楽しいと感じている 生徒の数値目標 1年…93% 2年…85% 3年…90% 性暴力防止等の方針に沿った点検	
いじめ発生の無い学校へ	いじめに関するアンケートを6月と9月の2回実施する。 早期に発見し、いじめ対応に関する学校の体制に基づいて対応して、解決をはかる（4月職員会議）	いじめの事案が発生した場合、いじめ問題対応マニュアルに基づき、双方納得ゆく解決を迅速に行う	
SNSトラブル防止 （2025年度は3件発生）	学年集会（4月）や各HR活動で、具体的　事例をあげて生徒に考えさせて指導する	SNSトラブル発生防止の取り組みを進めるが、発生した場合は迅速に解決する	
欠席や出席停止の増加を防ぐ 長欠生徒（30日欠席）の減少 （2025年度は52名） 学級閉鎖・休校の阻止	教室環境のチェック（温度・換気） 保健だよりの発行（年10回） 保健員会活動の推進（啓発活動） 部活動への注意喚起（熱中症・感染症） 保健室と生活指導で情報共有	欠席や出席停止の増加を防ぐ 長欠生徒（30日欠席）の50件未満へ 学級閉鎖・休校の件数0へ	

令和８年度　重点目標　　部署：生徒会指導部　　好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
明華祭の活性化と質の向上 ・生徒の主体性を生かしながら、より完成度の高い作品を制作することで充実感、達成感を感じさせる。 ・本校にしかない行事にする。	・各クラス、部活動との打合せ等を密にして、進捗状況の確認と作品の質の向上に務める。	来場者、生徒アンケート結果	
体育祭の成功 ・「生徒がクラスメイトとともに体を動かすことを通して、楽しく過ごす１日」という本校の体育祭が定着している。 ・クラスメイトとの一体感を感じさせる。その体育祭の成功を目指す。	・団体競技を通じて、クラス、学年の団結力連帯感を感じさせる。 ・運動が苦手な生徒も楽しく参加できる種目を実施する。	・生徒アンケート結果 ・当日の出欠状況の確認	
・生徒主体の行事を多く実施し、学校生活がより楽しく、充実したものになるように務める。 ・生徒が主体的に運営する委員会活動を目指す。	・生徒会執行部の生徒が、行事を企画、運営し、一般の生徒に楽しい時間を過ごしてもらう。（過去の一例：ウォーターバトル、ガトーショコラ制作など） ・委員会の取り組み内容や運営方法などを生徒に考えさせて、主体的な委員会活動を目指す。	・参加生徒のアンケート結果 ・行事の実施回数	
オープンスクールの充実 全校あげての取り組みとし、参加者の増加を目指す。	・本校の魅力を、より多くの人にしってもらう内容と、コース体験を通して、コースの魅力を知ってもらう内容にする。 ・生徒と教員の距離感が伝わるよう、生徒主体のオープンスクールを実施する。	参加者数	